

洗足徒然日記

こんにちは、高校2年生の報道委員です。

私たちは、10月末に奈良・京都修学旅行へ行ってきました。今回は昨年までと異なり実行委員が主体となって企画・運営してくれました。

修学旅行に行く前から準備を重ね、当日は学年全体をうまくリードしてくれました。実行委員が235名の生徒をまとめて、高校2年生全体で協力・連携ができたのは私たちの成長した証だと思えました。

私たちの宿泊行事はこれで最後となってしまい寂しい気持ちもありますが、残された1年と少しの時間を、充実した学校生活にしていきたいです。

今回は実行委員のトップとして活動してくれた文系リーダーのコメントを紹介したいと思います。

「今年度の修学旅行は、生徒主体を軸に運営しました。添乗員さんが決めてくださった大まかな行程表に沿って細かな流れや注意点を決定することが、主に実行委員の仕事でした。まず、修学旅行全体のコンセプトを決め、それが事前学習・修学旅行中・事後学習の中心となるよう、企画を考えました。先生方と生徒の間の立場である実行委員は、様々な決定をする中で、つい生徒としての気持ちを優先してしまいたくなる時や、生徒の立場も分かることから生徒に指示を出すのが苦しい時もありました。それでも実行委員全員が自覚を持ち、235人の生徒全員に最高の思い出を作ってもらうため、様々な状況を想定しながら準備を進めました。

そして、迎えた修学旅行は、先生方、添乗員さん、高2の生徒全員の協力のおかげで無事に3泊4日を終わることができました。実行委員としての仕事をしながらの修学旅行は、考えなければいけないこと、やらなければいけないことづくしで、ゆっくり楽しむことはあまりできませんでした。常に気を張って周りに目を配るのは本当に大変でした。そのような状況でも、歴史の魅力や、地元の方々の人情に触れたり、一人の生徒として得るもの、学ぶものはとても多く、充実した修学旅行でした。また、実行委員を経験したことで、集団での行動を率いることがどれほど大変であるかを改めて実感することができました。一人の生徒として、人間として、とても大きく成長することができた3泊4日でした。」

実行委員の指示はとても的確で、私たちがスムーズに動けるよう、様々なサポートをしてくれました。学年全員で行動する時は、近所の方々や通行中の方に迷惑にならないよう、一列になって歩くことを声がけしたり、夕飯の前には私たちに翌日のスケジュールを話したり、まるで先生のように全体のことをよく把握していて、本当に頼りがいのあるリーダーでした。実行委員の皆さん、お疲れ様でした！

次回は理系リーダーのコメントを紹介します。

